ひょうごJCC

兵庫県協同組合連絡協議会機関誌

86

2017. 5. 12

兵庫JCCは、生協、JA（農協）、JF（漁協）、JForest（森林組合）などの兵庫県内の協同組合運動相互の連絡提携、共通課題の実行および全国、海外の協同組合運動との連携を図ることを目的に、1984年7月7日に設立されました。「人とひとの心がふれあう、暮らし良い兵庫を目指して－協同が息づくまちづくり－」を基本理念として、協同組合の共通行動目標の実践に取り組んでいます。

Contents

1．協同組合活動スナップ …… 1

2．2016年度「虹の仲間づくりカレッジ」を開催 …… 2

3．2016年度協同組合研究・交流会を開催 …… 4

4．兵庫JCC2017年度活動計画 …… 5

6．今協同組合では－各協同組合からの報告－

●生協／JForest（森林組合） …… 6

●JA（農協）／JF（漁協） …… 7

7．協同組合運動に生きる

「虹の仲間づくりカレッジに参加して」

兵庫県森林組合連合会　業務課主任　稲月　秀昭 …… 8

協同組合活動スナップ

「地方消費者フォーラム in ひょうご」を開催

生協

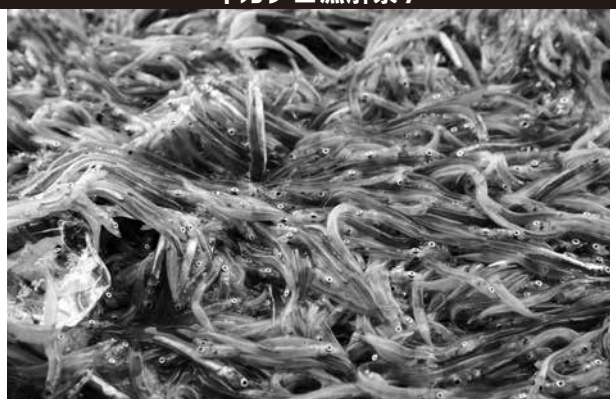
２月20日、「広げよう地域へ！つなげよう 世代を超えて！」をテーマに開催。映画上映や壁新聞交流会、リレートーク、ワークショップなどで244人が今後の地域活動の連携を深めました。

2017 兵庫酒米セミナーを開催

JA（農協）

県酒米振興会とＪＡ全農兵庫は3月17日、神戸市で2017兵庫酒米セミナーを開催しました。ル･コルドン･ブルー神戸校と共催し、県産酒米の日本酒とフランス料理の新たな組み合わせを楽しみました。

イカナゴ漁解禁！



JF（漁協）

ひょうごの春告魚、イカナゴ漁が３月７日に解禁となり、兵庫のおさかなファンクラブ「シートクラブ」では、毎年ご好評を頂いているイカナゴくぎ煮教室が開催されました。

竣工式を開催

JForest（森林組合）

2016年12月2日にバイオマスエネルギー(be)材供給センター及び朝来バイオマス発電所の竣工式が執り行われ、神事や施設見学が行われました。発電所は12月から本格稼働しています。

●編集発行

兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫 JCC）
Hyogo-ken Joint Committee of Co-operatives
生協・JA（農協）・JF（漁協）・JForest（森林組合）

●兵庫 JCC 事務局

兵庫県生活協同組合連合会　TEL(078) 391－8634
兵庫県農業協同組合中央会　TEL(078) 333－5896
兵庫県漁業協同組合連合会　TEL(078) 940－8013
兵庫県森林組合連合会　TEL(078) 341－5082

2016年度「虹の仲間づくりカレッジ」を開催

兵庫 JCC は 2016 年度に、全 3 回の「虹の仲間づくりカレッジ」を生活協同組合コープこうべと共催で開催しました。2015 年の「虹の仲間づくりセミナー」に引き続き、次世代を担う協同組合の職員同士が、顔の見える関係をつくり、くらし、地域、社会の中で果たすべき役割についてともに考えました。

第 2 回は 9 月 27 ～ 28 日に開催。神戸大学名誉教授の保田茂先生に、「食育とは何か」と題して講演をいただきました。2005 年に施行された食育基本法や、親から子へ正しい食べ方を教えることの大切さ、理解する上での経験と感動の重要性などについて学びました。参加者はその後、学んだことを基に、グループに分かれて、県内の大学生に食の大切さ等を伝える活動を企画し、実践に向けた準備を行いました。

その後、10 月から 12 月にかけて、各班で実践活動を行いました（P3 参照）。

第 3 回は 2 月 7 ～ 8 日に開催。グループごとに実践活動の成果を報告しました。参加者は実践活動を通して、食をめぐる課題を改めて洗い出し、協同組合間で取り組めることについて考えました。また、関西国際大学人間科学部の松原茂仁先生に実践報告を講評いただき、あわせて「地域活性化における大学との連携の可能性について」と題し、地域と大学・研究機関による連携が持つ可能性について講演をいただきました。

最後に、カレッジ全体のまとめとして、食をめぐる課題について協同組合間協同でやってみたいことを考え、共有しました。

受講生からは「カレッジでできた繋がりを業務に活かしたい」「役割は違うが、協同組合として協力することで何でも解決できると感じた」等の感想が寄せられました。

食の大切さについて講義する保田先生（第２回）

実践活動の成果を話し合う受講生（第３回）

１班「ひょうご鍋ツアー」（12月４日、兵庫県立大学）

栄養バランスの良い鍋の魅力や、地域の食料自給率を高める大切さを知ってもらうため、県産食材を使ったオリジナル鍋づくりに挑戦しました。

当日は海チーム（坊勢漁協）と山チーム（みずほ協同農園）に分かれて収穫を体験し、鍋に使う食材を調達。醤油・味噌・水炊きの３種類の鍋で味を競いました。参加者からは「兵庫の食材でこんなに美味しい鍋ができるなんて」「野菜や魚を食べることで生産者を応援したい」等の感想がありました。

JF 坊勢 姫路とれとれ市場にて

「べっぴん朝食メニュー」ポスター

２班「べっぴん朝食～兵庫県産のこだわり食材で素敵な１日を～」

（11月15～18日、甲南女子大学）

食生活が乱れがちな大学生にしっかりした朝食をとってもらい、地元食材と海や森について知ってもらうため、大学生協の食堂で、県産食材を使った期間限定メニュー「しらす丼」「しらすカレー」を提供しました。

期間中は開店前から行列となり、「兵庫県産の米やしらすがこんなに美味しいとは！」という声が多数ありました。また、トレイに敷く紙やPOPを使って、一次産業について大学生にＰＲしました。

３班「食に関する関心を持とう」

（12月10日、関西国際大学）

生産の苦労や現状、地元の美味しい食材を知り、食事を楽しむことを目的に、相生市で牡蠣剥きと牡蠣掃除を体験、養殖の過程や出荷の流れ、県内の水産業の現状などを学びました。昼には焼き牡蠣をはじめ浜の牡蠣料理を堪能し、市内の道の駅も視察しました。

参加者からは「牡蠣生産にたくさんの人手がかかることを知った」「県産水産物の豊富さに驚いた」「日頃の食事にもっと関心を持ちたい」等の感想がありました。

牡蠣剥き体験

コープこうべ生活文化センター
調理実習室にて

４班「兵庫の魚を食べよう！～捌き方の基本を学ぶ～」

（10月22日　甲南大、甲南女子大、神戸薬科大）

丸魚１匹を、そのままの姿からさばいて調理してもらい、魚食と県産食材、日本型食生活を身近に感じてもらうことで、魚離れ・調理離れの解消をめざしました。

当日は瀬戸内海のアジ、サバ、ツバス等を使用。参加者は三枚おろしや皮引きを体験し、刺身・焼き物・揚げ物・なめろうなど多彩な魚料理を作り上げました。

また、事後課題として家庭でも魚料理に挑戦してもらいました。

2016年度協同組合研究・交流会を開催

兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫 JCC）は 11 月 8 日、朝来市で 2016 年度協同組合研究・交流会を開催しました。

この交流会は、生産者・消費者が交流することで、互いを理解し、さらなる協同・連帯を促進することを目的として開催しているもので、今回は生協・JA・JF・森林組合の組合員・役職員など 27 人が参加しました。

午前は、県森連が生野町に建設したバイオマスエネルギー（be）材供給センターを訪問。本格稼働を翌月に控えた、発電規模約 5,600 万 kw のバイオマス発電施設を見学しました。根株に近い「タンコロ」や先端の細く曲がった部分など、従来は山林に放置されていた木材が施設に持ち込まれ、発電用の燃料になるバイオマス事業が、林業経営の安定と雇用・設備投資の拡大、資源の有効活用、災害に強い森づくりにつながっていることを学びました。

午後からは同市多々良木の朝来森林組合を訪問。同組合が管理している山に入って、伐採の現場を見学しました。大きな木が目の前で切り倒され、運び出される迫力に、参加者は圧倒されていました。その後は事務所に移動し、県内の森林の現状や組合の業務内容等について講義していただきました。

参加者からは「再生可能エネルギーは近年注目されている。この木質バイオマス発電事業はぜひ成功してもらいたい」「これまで廃棄されていた木材が有効活用される、起死回生のビジネスモデルだ」「地域の方々と協同組合が協力し、小水力やバイオマスなどの再生可能エネルギー開発を進めたい」「実際に伐採作業を見て、その大変さ、技術のすごさを感じた」「林業に携わる若者が増えていることを知り、次世代につながる取り組みが素晴らしいと感じた」等の感想が寄せられ、協同組合間の相互理解を深めることができました。

バイオマス発電施設を見学

バイオマス事業について学ぶ参加者

伐採の様子

兵庫JCC2017年度活動計画

目的

協同組合の原点学習や協同組合間協同の推進に向け、取り組みをすすめる。

企画名	主な活動内容	規　模	実施日
第 95 回国際協同組合デー・兵庫県記念大会	テーマ：「協同の力で未来を拓く」 「協同組合がよりよい社会を築きます」 講　演：「おひとりさま」と「おたがいさま」 講　師：上野 千鶴子 氏	約350人	7月6日
「虹の仲間づくりカレッジ」の開催	2013 年から取り組んだ「兵庫におけるポスト国際協同組合年を考える集い」を発展させ、「協同組合は地域・社会に貢献できるか」をテーマに、生産から消費をつなぐ協同組合間協同の可能性について共に考える。	約25人	①7月25日～26日 ②9月15日 ③2月（1泊2日を予定）
兵庫県版「森は海の恋人」運動	兵庫県漁連とコープこうべが取り組んでいる森づくり活動に参加する。	約50人	12月予定
協同組合研究・交流企画	豊かな暮らしを支える生産・流通・消費の相互理解を深めるため、生協、農協、漁協、森林組合の各協同組合が、互いの事業と活動を学習・共有化し、今後の更なる協同・連携を促進する。	約40人	2月予定
PHD運動への協力	兵庫 JCC として、（公財）PHD 協会による PHD 運動への協力を行う。 ① 各協同組合で PHD 運動を紹介 ② PHD 会員としての協力 ③ 研修生の受け入れ		

PHD の団体概要

【設立の経緯】

1962 年からネパールを中心に約 20 年間海外で医療活動に従事してきた岩村昇医師が、自らの活動経緯と反省をふまえ、「物」「金」中心の一時的援助を越えた草の根レベルの人材交流・育成を提唱して 1981 年 6 月に設立。

【組織の目的】

1．アジア・南太平洋地域からの研修生の招聘、研修後のフォローアップを通して、草の根の人々による自立した村づくりと生活向上に協力すること。

2．日本の人々もアジア、南太平洋地域の人々との交流を通して学び、そこから毎日の生活を問い直し、平和（Peace）と健康（Health）を担う人材を育成（Human Development）し、「共に生きる」社会をめざすこと。

今 協同組合では　―各協同組合からの報告

生協から

「新春トップセミナー・賀詞交換会」を開催

県生協連は１月７日､兵庫県民会館において 12 回目となる「新春トップセミナー･賀詞交換会」を開催しました。県から５人の方々をお迎えし、会員生協の役職員、共栄火災海上保険株式会社をはじめ、45 人の方々にご参加いただき、新年の決意を新たにする機会となりました。

井戸 敏三　知事

セミナーでは、本田英一会長理事の開会挨拶に続き、井戸敏三知事が登壇、生協への期待を込めた歌「一人ひとり自立しててもつながっている協同と連帯これが生協」を詠まれました。その後、神戸学院大学総合リハビリテーション学部社会リハビリテーション学科教授の藤井博志氏より「今、あらためて問われる地域（まち）づくりと、生協の役割」をテーマに講演いただきました。地域福祉の視点から、これからの地域づくりについて、①住民の自治形成が必要（主体力をつける）なこと、②専門職や事業者が地域づくりの一員として住民と協働することを、滋賀県高島市の取り組みを挙げながら話され、会場の参加者は熱心に聴き入りました。

賀詞交換会には県の消費者行政担当の方々にもご参加いただきました。本田英一会長理事の挨拶に続き、ご来賓を代表して県政策創生部長の山口最丈氏のご挨拶で和やかに会がスタート。日頃からお世話になっている行政の皆様と会員生協・団体の皆様が賀詞交換を通じて交流を深めました。

講演される　藤井 博志　教授

JForest（森林組合）から

ボランティアによる森づくりを支援しています

兵庫県森林組合連合会では2008年から､企業の森づくりの支援業務を請け負い､県内各地で森づくり活動の計画･準備・作業指導等を行っています。

企業による社会貢献が目的なのはもちろんですが､地域との交流やレクリエーションの効果も期待されています。女性やお子さん等、初めてスコップを握ったり、木を切ったりする方も多く、自然の中で普段できない体験をしてもらう良い機会になっています。社員研修として毎年続けている企業もあります。安全最優先なので、準備の手間や心配も多いのですが、森林整備の普及・啓発に大きな効果があります。

六甲山では企業の他、多数のボランティア団体や小学生による森づくり活動が盛んに行われています。

小学生の植樹会では、大勢の人が斜面を移動するので、活動前に危険な木を切る、通路を設置する等、安全に活動できるように準備します。大人の団体ではチェーンソーや鉈、スパイク等、本格的な道具をそろえて作業したいと相談に来られるので、道具や資材の手配もしています。

森づくり活動の支援では、整備効果や希少な生物の保全にも敏感になるので、森林組合職員も勉強する必要があります。都市部では森林組合のことを知らない方も多いので、森づくり活動に積極的に関わることで森林組合の存在をアピールしています。

外来種のニセアカシアが倒伏する荒れた森

プロが伐採した後、ボランティアが植樹・下刈りします

JA（農協）から

「ＪＡ女性営農指導員フェア」を開催

フェアを企画した
女性営農指導員

JAグループ兵庫は3月14～20日の7日間、JA全農兵庫直営レストラン「神戸プレジール」で「JA女性営農指導員フェア」を開催しました。県産農畜産物とJA女性営農指導員の活動をPRするため、JAみのり、JA兵庫南、JA兵庫西、JAハリマ、JAたじまの女性営農指導員9人が企画した初めての取り組みです。

期間中、「神戸プレジール」のランチ利用者に、女性営農指導員がそれぞれのJAお薦めの食材を使った、限定の特別コースを提供しました。また、3月15日は、「15（いちご）」にちなみ、デザートにJAみのり、JA兵庫南、JA兵庫西それぞれの管内で採れたイチゴの食べ比べを提供しました。

ランチ利用者へ手土産を提供

利用者にはお土産として、参加JAと連合会（JA兵庫信連、JA全農兵庫、JA共済連兵庫、JA兵庫厚生連）が提供した手土産も提供。本物の神戸ビーフと県産食材の味わい、女性営農指導員の活動をおおいにPRしました。

JF（漁協）から

～満員御礼！ＳＥＡＴ－ＣＬＵＢのイカナゴくぎ煮教室～

3月7日に解禁となったイカナゴ漁は、資源量の減少により不漁となり、初値1キロあたり3～4千円と空前の高値となりました。

漁業者は「来年には十分に提供できるように」と、資源保護のため大阪湾では3月18日、播磨灘では3月22日に、例年よりも10日以上早めの終漁となりました。

イカナゴくぎ煮教室

今漁期においてはイカナゴ漁が不漁でしたが、JF兵庫漁連のひょうごのおさかなファンクラブ「SEAT-CLUB（シートクラブ）」では、毎年ご好評を頂いているイカナゴのくぎ煮教室を3月8日から3月16日まで開催しました。予定発表と同時に予約の電話が鳴り続ける程の人気教室で、今年も予約開始後すぐに全日程が満席となり、多くのキャンセル待ちが出るほど盛況でした。

また、県内の小中学校の家庭科の授業の一環として、イカナゴを漁獲する漁業者で組織する「兵庫県イカナゴ謝恩実行委員会」と「SEAT－CLUB」は、学校に講師を派遣するイカナゴくぎ煮教室や、3月18日には、今回で2回目となるイカナゴ料理コンテストを開催しました。

イカナゴ料理コンテストで
腕を奮う出場者

このコンテストは、くぎ煮以外のイカナゴ料理のレシピを競い合うもので、若い消費者の方にもっとイカナゴの良さを知ってもらいたいとの思いから、昨年から漁業者の発案で開催することとなりました。一般消費者からレシピを募集、書類選考を勝ち抜いた5人が兵庫県水産会館の調理実習室で、実際に調理し競い合いました。大賞レシピには「トマトバジルソースと油淋鶏ソースのイカナゴ揚げレタス巻き」が選ばれました。

このような活動を通して、沢山の方に兵庫の魚のおいしさを知っていただき、伝統的な魚食文化が見直され継承されていくよう、今後とも魚食普及活動に取り組みます。

トマトバジルソースと油淋鶏ソースの
イカナゴ揚げレタス巻き

協同組合運動に生きる

虹の仲間づくりカレッジに参加して

兵庫県森林組合連合会　業務課主任　**稲月　秀昭**

2016年度の虹の仲間づくりカレッジで、私が参加したグループでは、大学生への食育というテーマの中で、兵庫県産の食材でしっかりと朝食をとってもらうこととしました。具体的な活動は、大学で1週間の期間でシラス丼を1日40食の提供をしたところ、毎日完売する人気で、驚きました。普段の業務では食材を扱うことがなく、また直接消費者の顔を見ることが少ないことから、最初は戸惑いましたが、他の協同組合の方々の協力により、無事に成功し、楽しい経験をさせていただきました。

虹の仲間づくりカレッジでは、今までほとんど付き合いのなかった他の協同組合の方々の話が聞ける良い機会になりました。今まで協同組合である森林組合の職員として働いていましたが、あまり深く協同組合を意識して働いていなかったと感じました。

また、カレッジに参加する中で兵庫の森林・林業の現状についてあまり知られていないと感じることがありましたので、ここで紹介させて頂きます。

兵庫県の森林は森林面積約561千haで、県土面積の約7割程度を占めています。森林面積のうち約95%を民有林が占めています。

また、民有林の人工林（主にスギやヒノキなどで木材の生産機能を持つ）面積は約221千haとなっており、このうち木材として利用可能とされる46年生以上の森林が66%となっています。

森林は水源かん養機能（降雨を吸収・貯留し徐々に流出させることにより洪水や渇水を緩和する機能）、土砂流出・崩壊防止機能、木材の生産機能その他さまざまな多面的機能を持っています。

このような機能を持続的に発揮するためには（特に人工林）、計画的に間伐などの手入れを行い（保育）、収穫して利用し、また新たに植林して、保育をし、収穫というサイクルで持続的に森林を利用していくことが必要となっています。

しかし、近年、原木価格の長期低迷や、森林所有者の山離れ、それに伴い不明瞭な境界等により、森林の手入れ不足等が問題となっており、また需要に応じての安定供給体制が構築できていない状況にあります。

こうした中で、輸入木材から国産木材へシフトする動きや、FIT制度（再生可能エネルギー固定価格買取制度）を活用した木質バイオマス発電のエネルギー資源としての利用により、今まで山に放置されていた未利用の木材までもが有効に利用されるようになり、林業経営の安定化が図られつつあります。

私は2004年に兵庫県森林組合連合会で働き始め、現在は業務課に所属し、木材製品や山行苗木、緑化木・果樹木などの販売や、森林の測量・調査、松くい虫等の病虫害防除事業、企業の森の森林整備の活動支援などに従事し、県内の森林をいろいろ見てきました。初めはスギとヒノキの見分けもロクにできていなかったことを覚えています。10年余働いてきたなかで、ようやく森林や林業のイロハぐらいは解ってきたつもりですが、まだまだ覚えることや、勉強しなければならないことがたくさんあると感じています。そんな中参加した今回の虹の仲間づくりカレッジを通して、協同組合の職員として働くということを学びました。

今後この機会を活かして、協同組合間で連携し、協同の力が発揮できればと思います。